

学校関係者評価委員会報告

学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台では、本校の学校関係者評価委員会規定に基づき委員会を実施いたしました。以下に議事進行についてその内容をご報告いたします。

今後は、各委員からの貴重な意見や提案を真摯に受け止め、学校運営の改善および教育の質の向上に努力してまいります所存です。

日時：平成27年11月30日(月) 15:00～16:30

会場：専門学校デジタルアーツ仙台 2階 大会議室

出席者：11名

1. 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員

氏名	所属等
委員長 桑島 幸毅	株式会社仙台シティエフエム 統括マネージャー
副委員長 小野寺 千代志	有限会社ビックフラットエンタープライズ ライブハウススペースゼロ 店長
岸浪 行雄	株式会社東北共立 代表取締役 (当日欠席)
中林 寿文	NPO 法人 国際ゲーム開発者協会日本 副理事
金塚 弘	株式会社メディアPR 代表取締役
落合 泰朗	本町新光町内会 会長
金子 篤	株式会社メディアPR 代表取締役
山本 一平	有限会社アノンピクチャーズ クリエイティブディレクター
狩野 咲	卒業生 (マジカルリミックス勤務)

事務局

氏名	
櫻井 潤	専門学校デジタルアーツ仙台 教頭
間中 隆	専門学校デジタルアーツ仙台 教務部長

2. 委員会次第

- ・ 開会 櫻井教頭
- ・ 実績数値説明
- ・ 自己点検報告 委員長
- ・ 討議、意見交換 各委員
- ・ 閉会

3. 討議・意見交換

(1) 教育理念・目標

学校の教育理念は4月のオリエンテーション時に配布する学生便覧に明記しており入学時に人材育成像と共に学生に説明しているが、保護者への説明が不足しているとの自己評価に対し、ホームページや入学案内に掲載しているのであれば、それほど問題は無いとの意見があった。

保護者への理解は大切なものと考えているため、保護者説明用の案内文の作成やホームページ・入学案内の充実を図っていく。

(2) 学校運営

職業実践専門課程の申請に伴い各種規定の整備、情報公開を実施している。学校業務の情報システムが老朽化しているため、セキュリティ面も考慮し再構築する必要があるとの意見が出たので電算部門に確認および検討依頼を行う。

(3) 教育活動

教育活動については積極的に行っているが、最先端の教員研修についてはあまり参加できていないとの自己評価に対して以下のような意見が出た。

- ・ 東京では、研修の機会が頻繁にあるので地域差がある。
- ・ CG技術では最先端の技術を教えるのであれば最先端の機材が必要である。
- ・ 専任教員の技術習得のポイントは技術の向上より指導力の向上ではないか。
- ・ 専任教員と非常勤講師との技術的な関わりを密にする。

学生指導に直結する問題なので、教員の技術向上に関して学校・学園としてシステム化を図っていく。

(4) 学習成果

就職率の向上に関しては科（業界）によって採用時に重要視されるポイントが異なっているとの意見が出た。（以下参照）

- ・ ゲーム系（とにかく技術が大切である。）
- ・ デザイン系（ポートフォリオが重要視される。）

- ・ スタッフ系（チームとして一緒に仕事出来るかが重要である。）

また、社会に出てからの仕事の厳しさを教える機会が離職率を低減するとの意見もあった。

退学率の低減に関しては、学生支援センターを設置し出席不良者の指導を行っている。

また、精神的な問題がある学生に関しては専門家のカウンセリングを実施している。

学生全員を対象に学生生活アンケート「ハイパーQU」を実施し個々の学生の諸問題の早期発見に取り組んでいる。

今後とも、きめ細かい指導を目指して欲しいとの意見があった。

(5) 学生支援

学生の体調不良時に、休む部屋はあるが常駐している看護師などがいないとの自己評価を受け、緊急時の体制（近隣の病院への搬送、救急車の手配）などの対応がしっかりしていれば問題ないのではとの意見があった。

現在、救急時の状況報告書の作成を行っており、今後も継続していく。

(6) 教育環境

教育上の設備に関して、以下のような意見があった。

- ・ アナログからデジタルに機材が変わってきているので、それに対応していく必要があるとの意見があった。
- ・ 基本的な技術を習得するのが専門学校の主たる役割なので基本的な教育ができる機材があれば良いのではないか。

学校としては今後とも実務環境と同じ環境で勉強出来るように学習設備・環境を整えていく。

(7) 学生の受け入れ募集

概ね、昨年に比べ募集は順調である。

昨年度より高校生の進路活動時期が早くなり、専門学校進学への意識が高くなっている。

今後ともオープンキャンパス参加者の入学率をアップすることを目指す。

(8) 財務

意見・異議等なし。

(9) 法令等の遵守

意見・異議等なし。

(10) 社会貢献・地域貢献

学校としては社会貢献できていると自己評価している。

数年前から本町夏祭りや障害者などのイベントで音響、司会などで学生が参加し非常に助かっているとの意見があった。

学校としても、さらなる充実を目指し地域貢献を活発に行っていきたい。

(11) 国際交流

- ・特に問題はなく、入国管理局からも適正校とて認定されている。
- ・国際情報ビジネス科では、担任と連携し、留学生に対応している。一昨年は中国の留学生が多かったが、昨年度からベトナムやネパールからの留学生が激増している。漢字圏ではない学生が多いので板書が通じないので指導には苦労している。
- ・留学生の卒業後の進路についても質問があった。日本で就職を希望している留学生が多く、一般就職する学生が殆どであり、一般就職の斡旋を学校では行っている。また少数だが勉強して母国に帰りたい学生もおり、ミュージックアーティスト科に入って日本語を覚えてプロダクションに作曲家として採用された留学生の卒業生もいる。
- ・留学生が学校を知るきっかけとしては日本語学校を経由して認知される場合もあるが、多くは留学生間のネットワークが強いので先輩から後輩に紹介することで学校を知るようである。